

受講生 成果報告

アンケート実施期間：2025年1月23日～2月3日



Q①：この講座を通じて、どのような知識やスキルを身につけましたか？

舞台演劇関係のアーカイブの状況と著作権処理



2022年度受講生

- 公演記録のアーカイブ化の意義
- 音楽に関わる権利処理
- アーカイブガイドブックの使い方



2024年度受講生

- アーカイブの哲学や理念
- データ保存や著作権法に関する知識(アップデート)
- 演劇はじめ舞台芸術に関する知識



2022、2023、2024年度受講生

- 著作権の基礎
- アーカイブを作成する上で考えるべきことの整理



2022、2023、2024年度受講生

アーカイブ思考との出会い。
制作的なノウハウ(坂本ももさん)、
アーカイブ実務のノウハウ(本間友さん)



2022、2023、2024年度受講生

「舞台芸術アーカイブとは何か？」という問いへの自分なりの答え(死者とのつながり、未来への継承)



2022、2023年度受講生

- 舞台芸術アーカイブの現状
- 現場の意見



2022、2023年度受講生

日々の上演活動の中で意識的に「残す」ことが、後日の自分のため、後世の他人のためにいかに大切かということを再認識しました。



2022、2023、2024年度受講生

Q②：講座で学んだことの中で、特に印象に残っている内容や、現在でも役立っている内容を教えてください。

舞台に関する映像資料を収集、データ化し、視聴まで可能にした手続きの流れ



2022年度受講生



自作の上演活動や、公演記録のアーカイブ化という構想、教育活用を目指した地域文化資源のデジタルアーカイブ化という業務が全て「死者との対話」の中にあるということ。アーキビストとして「今の中にある過去と未来」をマネジメントしていると感じ、自分の活動や仕事の重要性、意義を実感しました。



2024年度受講生

アーカイブを収益化に結び付けている方々の実践例。高萩さんの「演劇の映像化事業」についてや、ネクステージ・福井さんの「魅せる価値のカタチ」など。



2022、2023年度受講生



Q②：講座で学んだことの中で、特に印象に残っている内容や、現在でも役立っている内容を教えてください。

2024年の第3回講座での、アーカイヴとパフォーマンスは「知識／知恵の受け渡し」という機能の本質的な部分を共有しているのだから、劇場でアーカイヴすることは本質的な営みなのだ、とのお話に共感しました。



2022、2023、2024年度受講生

契約、マイノリティについて



2022、2023、2024年度受講生



今も使っているのは制作的なノウハウ(坂本ももさん)、アーカイブ実務のノウハウ(本間友さん)。それ以外に年に1回アーカイブを集中的に考える機会があったことが、自分の作家活動に大きな影響を与えてくれました。



2022、2023、2024年度受講生

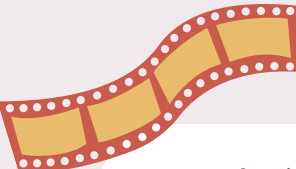
デジタルアーカイブ利活用のための工夫、舞台芸術の創作の諸段階で生まれる資料とその保存、利活用に関する考え方と具体的な方法



2022、2023、2024年度受講生



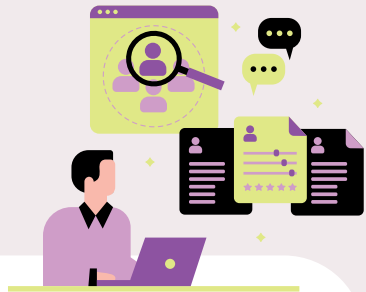
Q③：現在の活動の中で、講座が役立ったと感じる具体的なエピソードを教えてください。



アーカイブ化が立ち遅れている映像分野で、いかにスタッフの残した資料が貴重であるかを再認識しました。



2022年度受講生



手元にある出演作の資料(台本など)を目録化しました。またアーカイブ化し公開することで自身の活動を広く周知できています。



2022、2023、2024年度受講生



音楽にかかる権利処理の実際を学べたことは、「わらべうた」の記録保存という活動にすぐに役立つものとなりました。(歌手に歌唱依頼をし、録音し、公開・配信)



2024年度受講生

何回か、演劇博物館の映像ブースと利用しました。毎回、過去(死者)とのつながりを持てる場所という吉見先生の言葉を思い出しながら貴重な映像を拝見しています。



2022、2023、2024年度受講生



Q③：現在の活動の中で、講座が役立っただと感じる具体的なエピソードを教えてください。



著作権に関する様々な問い合わせにお応えする際に、また自分が企画・実施した公演をYouTube配信する際に、何度も資料を見返しています。また自分の企画する催事において、専門家だけ、とか学生だけ、という形に属性を区切らず、敢えて属性や年代をフラットにして偏りが無いグループ作りをするようになりました。



2022、2023、2024年度受講生

人間関係や演技力



2022、2023、2024年度受講生



アーカイブに対し「作業が難しい」というイメージを持っていたが、実際にはやれるところから、やれる形で進めればよいということが分かった。Excelで資料を管理し、目録を作成、データ化した映像をウェブにアップロードし限定公開するなど、実際に作業が進んだ。



2022、2023年度受講生



現在は業務を離れていますが、過去にアーカイブの作業を行っていた時に考えていたことが裏付けられました。



2022、2023、2024年度受講生

Q④：今後、さらに深めたいテーマや分野はありますか？

演劇舞台と文学と映像の関連性



2022年度受講生

世界（日本を含む）の劇場
および公演のアーカイブ公
開状況について



2022、2023年度受講生

劇団とファンがどう関わって
いるか、ファンの感想や評価
を創作にどう活用しているか



2022、2023、2024年度受講生

すでに過去のものとなってし
まった舞台芸術のアーカイブ
について



2022、2023、2024年度受講生

プロジェクトにおけるプロセ
スとしてのアーカイブをもっ
と掘り下げて、具体的なケー
スを知りたい。あるいは、受
講生同士の実践を通じた気づ
きやノウハウの共有がもっと
なされたい。



2022、2023、2024年度受講生

持続可能なアーカイブの実践
方法について。今のままだと
作業が属人化してしまい、長
期的な継続が困難。舞台芸術
界における組織の構造を踏ま
えた、アーカイブの継続可能
性について議論してみたい。



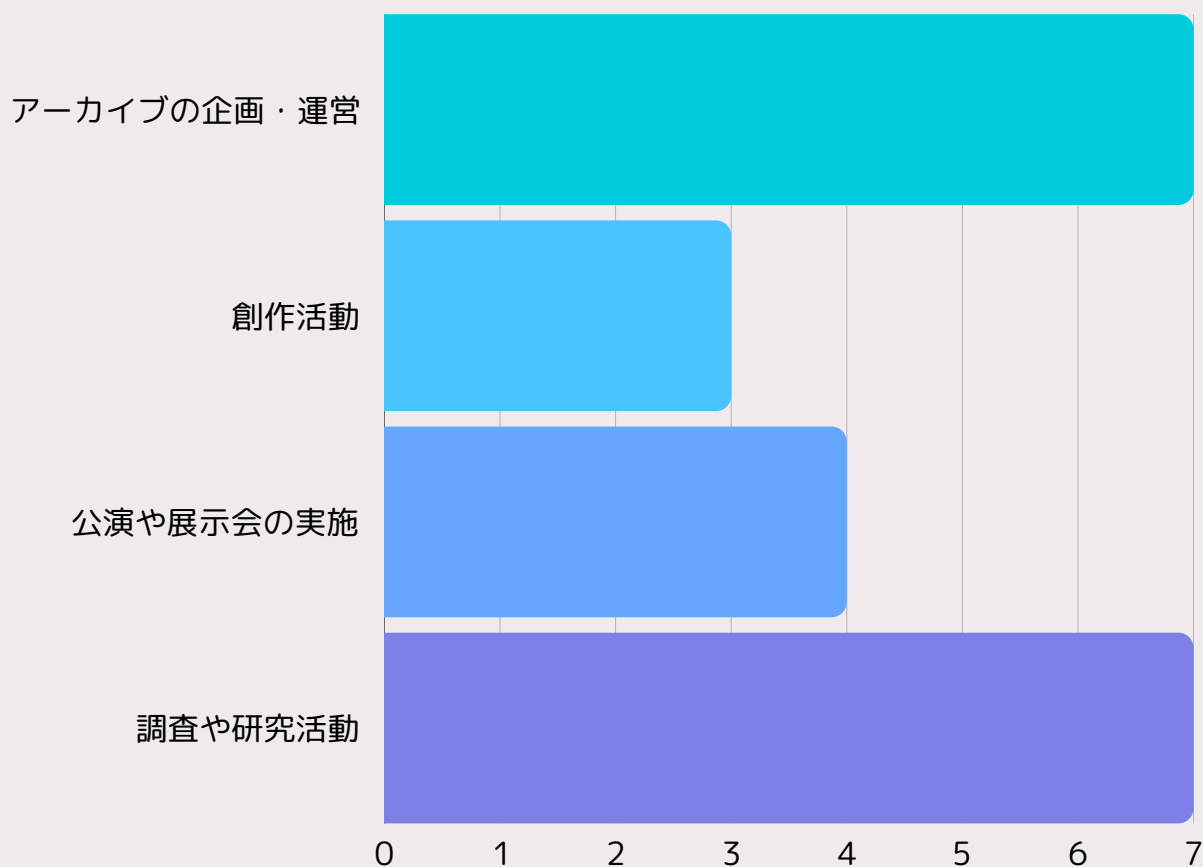
2022、2023年度受講生

デジタルアーカイヴの構築・
活用またデジタル技術の進歩
に伴うアーカイヴの変化



2022、2023、2024年度受講生

Q⑤：講座で得た知識やスキルを活用して、
具体的にどのような活動を行っていますか？
（複数選択可）



その他

- ・ 個人的なアーカイブの整理
- ・ アーカイブの作成

